

フリースクール サマーキャンプ大成功!! 皆様に心を込めて、ありがとう

夏の真ただ中、毎年恒例のキャンプを行いました。今年度は1泊2日で、ゆったり、そしてにぎやかに、満喫しました。恒例の水かけは、川を舞台に、子どもたちの笑い声がこだまする中、全身びしょびしょになりながら、時間を忘れて楽しみました。そして暑い中のサッカー、夜の鬼ごっこと肝試し、みんなで温泉など、時間いっぱい楽しみました。お待ちかねのディナーは定番のカレーと、BBQの二大スターの豪華共演!少し日焼けした子どもたちは、「また行きたい!」「あんなに笑ったの初めて」と感想を口にしていました。

今回のキャンプは、多くの皆さまから、テントやタープ、クーラーボックス等の寄贈、行事へ

のカンパ金、当日の食べ物の差し入れ等、多くの援助を頂きました。たくさんの皆様に支えられ、今年のキャンプは大成功で、子どもたちの笑顔も、夏の太陽のように輝いていました。本当に皆様のおかげです。ありがとうございました。これからも共に子どもたちの成長を支えていただければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。



【ブログ名】NPOの舞台裏 ~組織を変えた100の経験~
【URL】http://blog.livedoor.jp/npo_knowhow/
→「NPOの舞台裏」でインターネット検索してください。



NPOという仕事の裏側を語る「NPOの舞台裏」ブログ絶賛発信中!

2014年6月より、NPOの仕事の裏側を語る「NPOの舞台裏」ブログがスタートしました。

東日本大震災以降、「NPO」という新しい働き方に注目が集まっていますが、同時に「NPOで働くってイメージしにくい」といった声もお聞きします。NPOで働くことの疑問にお答えするため、子ども・若者を支えているスタッフたちが働く上での楽しさや悩み、またその解決方法など、ブログを通して発信しています。更新日は毎週水曜日です。

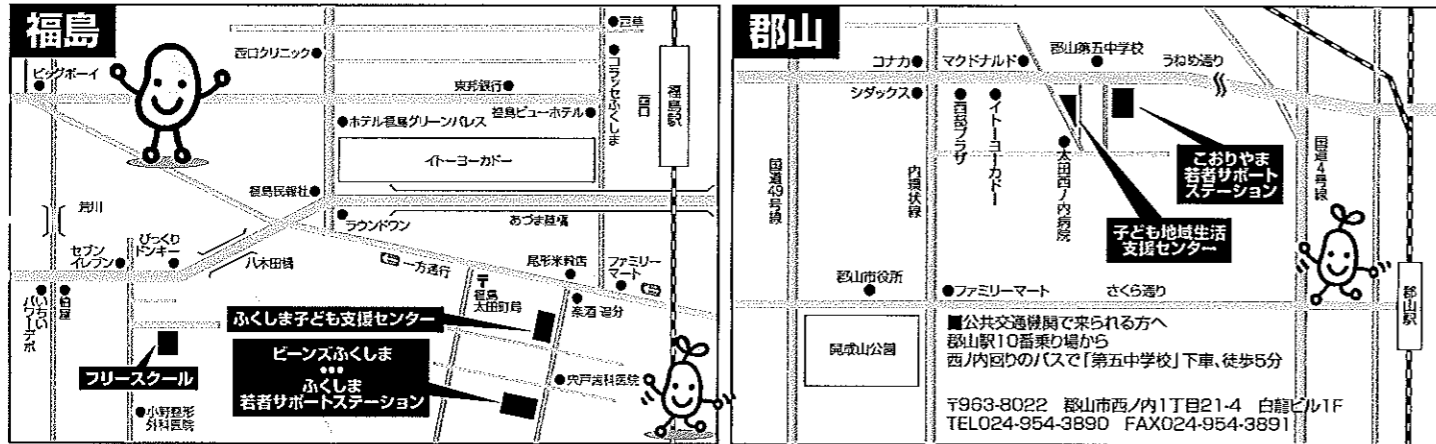
NPOで働いてみたい方、NPOを運営していて悩みがある方、ビーンズのスタッフがどんなことを考えているのか知りたい方にお勧めのブログです。ビーンズ以外の団体の方も執筆しているので、ぜひNPOの裏側をのぞいてみてください。

これからの活動予定

- ピアサポ**
9月3日より 県北ピアサポート開催
9月24日より いわきピアサポート開催
10月6日より 相双ピアサポート開催
- ママカフェ** (※参加対象: 避難先から福島に戻ってきた母親、白河のみ: 白河で子育てをしている母親)
ママカフェふくしま: 9月26日(金)、10月24日(金) 10:00~12:00
ママカフェこおりやま: 9月11日(木)、10月9日(木) 10:00~12:00
ママカフェしらかわ: 9月10日(水)、10月8日(水) 10:00~12:00
ママカフェいわき: 9月16日(火)、10月21日(火) 10:00~12:00
- コモンセンスペアレンティングトレーナー養成講座**(郡山)
10月11日(土)、12日(日)、13日(月) 会場: ミューカルがくと館
11月1日(土)、2日(日)、3日(月) 会場: 未定
(※子どもの効果的なつけ方や望ましい関わり方について、親に伝えるための支援者向け講座です。)

編集後記

いきなりですが、私は「朝」が一番好きで、特に朝日が昇る時間帯がとても好きです。それはなぜか?これから何が始まるか分からない、「未知のワクワク感」を感じてしまうのです。街の中を歩いたり、近所を歩いたり、毎日同じ景色を見ているはずなのに「朝」だけは違う色と雰囲気を感じ出している気がするのです。そして「今日も一日頑張ろう!」と気合を入れる!みなさんは、どの時間帯が好きですか?



●ビーンズふくしまのホームページ こちらへアクセス → <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>

ビーンズ通信 Vol.65

●発行日/2014年9月10日

●発行元
特定非営利活動法人
ビーンズふくしま
〒960-8066 福島県福島市矢剣町22-5 2F
TEL&FAX 024-563-6255
URL <http://www.k5.dion.ne.jp/~beans-f/>
E-mail info@beans-fukushima.or.jp

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもやひきこもりの青年などに安心できる居場所を提供し、1人1人に寄り添って、ゆるやかな社会参加を促し、その自立を支援する、若者支援の理念に基づいて事業を展開しています。

居場所を問うところみ

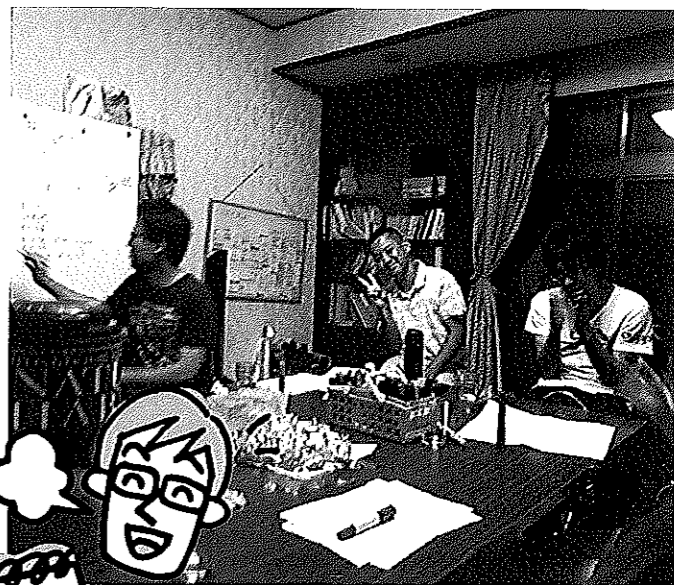
ビーンズふくしまは団体創設以来不登校の子ども達の学び場、フリースクールを運営してきた。人によっては、「不登校の子どもの居場所づくりをしている。」とか、「居場所を開設している。」とか、フリースクールを居場所と言いつける事がある。一方、子どもと話をすると、「家に(学校に)居場所がない。」とか、時に「ビーンズが私の居場所」とか言う時がある。これらで出てくる「居場所」って何だろう?と思う。

東日本大震災以降、ビーンズふくしまでは、原子力事故災害で避難を余儀なくされた子ども達の放課後の「居場所」づくりを行っている。故郷や仲間との別れ、応急仮設で生活する子ども達の放課後に、学習の場や様々な体験の場を創る試みだ。この活動を知る人に、問われた事がある。

子ども達に居場所は必要ですか?

もちろん必要だと思ってやっているのだが、恥ずかしながら、いまいち説得力のある必要性を論じきれないビーンズふくしまでもある。活動をしていると「居場所」に関わる問いが出てくる。それらの問いに答えたいとの衝動が湧いてくる。衝動源は、なぞなぞに答えたいソレとは異なり、それらの問いに答える事が活動の推進に繋がる予感だ。例えば賛同者を募る時に、例えばスタッフが活動の本質を理解する為に、例えば子どもの訴えや

@フリースクール 居場所



願いを理解する為に、上記に出てきた問いに答える事は重要だと理解する。先日、職員有志が集まり「居場所」に関する問いを話し合う場を持った。それぞれの居場所の定義、居場所に関する自身の原体験、なぜ子どもに居場所が必要かを議論した。職員が居場所をどう捉えるかの試行錯誤の一端だ。この取り組みで上記の問いに対してすぐさま答えをだせるモノでも無いのだが、それぞれ持っている居場所に対するイメージや拘りを知り共有する事はできた。このそれぞれのイメージや拘りを「居場所観」と呼ぶことにし、さらに問いをずらし、

なぜ「居場所観」をとらえる必要があるか考えてみた。「子ども達に居場所は必要か?」との問いに、答えるのに今の社会で、なぜ居場所を失った(無いと感じる)人たちがいるのか?社会と居場所を考えなくてはいけない。社会と自分と居場所とを考えなくてはいけない。ひっくり返して「居場所観」だと風呂敷を広げた時に見えてくる居場所の必要性と要因があると自身は思う。

社会学者の阿部真大さんの著書「居場所の社会学」の一説に、「居場所とは、社会的排除にあった人たちがもう一度、社会へ正しく包摂する取組だ。」との文章がある。僕らの行っている活動が、包摂の取組だとしたら問いを立て答えながら、実践をつくる向こうに、「居場所」を必要としている子どもに届けたい共感と、子どもに居場所が必要な問いへの答えがあると信じる。

予告 ビーンズ創立15周年を迎えて

1999年9月9日に創立したビーンズふくしま。今年で創立15周年を迎えました。これも皆様からのご支援ご協力のおかげです。本当にありがとうございます。次号の通信では15周年特集をお伝えいたします。お楽しみに。

フリースクール

夏休み明けの8月22日、フリースクールでは猪苗代湖へ行ってまいりました。空も晴れ模様で絶好の湖水浴びより、約1時間のドライブを経て湖に到着。志田浜という観光地で出店なんかたくさん出ていてにぎわっている様子でした。ついてすぐみんなで大ヒルボートに乗りながら水の上をお散歩。景色を眺めながら心地よい風を感じることができました。ボートから降り、時間はちょうど昼食

時、みんなそれぞれ出店で気になっているお店で買い物をしたようでした。クレープにかき氷、おいしいジェラートのお店では、定番の味に加え、えだまめ味やワサビ味などの変わり種もあり、みんなで楽しみました。

午後はいよいよ入水!ということで、最初から水着でゴーグルまで着用の江藤さんは一直線に湖へ入って行っていましたね。子どもたちもそれに続いて、なぜか水着を着てないメ



ンバーやスタッフが水に入っていくというハプニングも発生しましたが、けがなく、安全に湖水浴を楽しむことができました。フリースクールの二学期は好調にスタートを切ることができました。

福島県子どもの健全育成支援事業

プール遊び

7月は地域の屋内プールを利用したプール遊びを行いました。子どもたちの参加人数は控えめでしたが、こちらから休憩と言わなければずーっと遊んでいるのではないかと思うくらい元気に仲間やスタッフと体を動かして楽しい時間を過ごしていました。



キャンプ

8月は上半期で最も大きなイベントのキャンプでした。1日目の昼は水鉄砲や鬼ごっこのようなゲーム、夜は花火、2日目はバーベキューを行いました。残念ながら花火は天気が崩れ、途中で中止となってしまいましたが、それ以外の遊びの時間では目一杯楽しむ子どもたちの姿がありました。また、普段学校が違うためなかなか会うことのできない仲間と楽しく交流している姿もみられました。どのイベントでもそうですが、子どもたちのエネルギーの力強さには驚かされます。

ふくしま子ども支援センター

7月26日東京サマーランドで埼玉県へ自主避難中のママのためのカフェ、第一回ぼろろんカフェが開催されました(参加者22名)この日は猛暑!最高のプール日和です。子ども達は色々なアトラクションのあるプールで思う存分遊び、ママ達は淹れたてのコーヒーを飲みながらおしゃべりが尽きない様子でした。自主避難しているママ達が安心して過ごせる場が誕生した日となりました。

8月8日~10日NPO法人子どもプロジェクトさん主催の「ふくしまっ子夏の学校 in 上田」に協力として参加しました。自然に恵まれた信州国際音楽村で約30名の福島の親子が参



加しました。メインプログラムは9日の武石川遊びと東京大学加藤教授の科学教室(ザクロ石探し)でした。

震災後、森や川で遊ぶ機会が少なくなりましたが、この夏の学校ではたくさん自然と触れ合うことができました。子ども達の瞳がキラキラ輝いていた3日間でした。

ピアサポートネット

わらじ祭りに行ってきました!

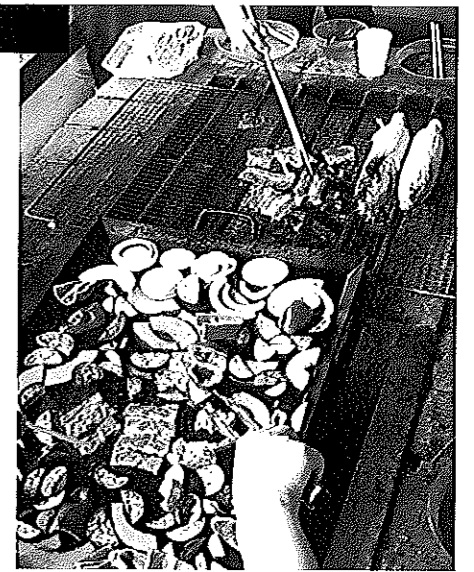
8月1日・2日に福島市にて、わらじ祭りが開催され、なんと我々ピアサポートもボランティアとして参加してきました。いつもお世話になっている手作りマルシェさんのお店でのお手伝いで、かき氷や冷やしきゅうり・トマトなどの夏の美味を販売しました。なんと、かき氷はイチゴやメロン味のほかに「トマト」・「きゅうり」味のオ



リジナルメニュー、他にも美味しいスイーツの販売もあり、閉店間際までたくさんの人でにぎわい、大盛況となりました。長時間にわたって、お客様への呼びかけやかき氷作り、接客やお金の会計など今までなかなか体験したことのないお仕事をさせて頂き、貴重な体験に恵まれました。

BBQ in 東風の台公園

8月28日は、白河でバーベキューをしてきました。今回は白河のメンバーが主体となって企画をし、会場取りやスケジュール管理などをすべて行って、買い物から調理までディレクターもしてくれました。そのためスタッフは特段準備もなく、企画にわいわい楽しんで参加してまいりまし



た。ご協力いただいたアネシス学院の皆様ありがとうございました!ピアサポートが目標としている利用者主体の自主的サークル活動を行うことの大きな一歩になったと思います。

うつくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト(県中)

富岡町から避難されている子どもを対象に7月19~20日にかけての1泊2日で宿泊キャンプをしました。参加者は、子どもから保護者まで総勢27名です。昨年、日帰りキャンプをした時に子どもたちから「次は宿泊がしたい!」との要望が大きかったことがきっかけです。

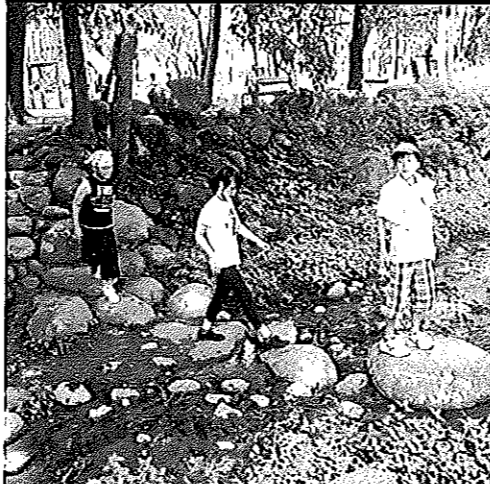
当日は、小学2年生~高校1年生まで5班に分かれて野外炊飯(カレー・やきそば作り)、きもだめし、アスレチック運動、球技大会、インラインスケート、アーチェリーなど楽しみました。今回の活動は全て中学2年生中心



に計画してくれたもので、子どもたちからは「次はキャンプある?いつお泊りできるの?」という声が多く聞かれました。また、自分たちで計画し実現したことも嬉しかったのではと感じました。今後も色々計画しながら共通体験を積み重ねていきたいと思っています。



うつくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト(県北)



7月31日に、県北県中合同の夏企画「スパリゾートハワイアンズへ行こう」があり、子どもと保護者、スタッフ・ボランティア計69名が参加しました。プールやウォータースライダーで思い切り遊んだ子ども達は、疲れ気味の大人をよそに、帰路のバスの中でも元気一杯でした。

8月18日から22日の5日間は静岡の大学生グループが、福島と二本松の仮設住宅を訪れました。学生に入替りはあっても今回で5回目。子ども達はすぐに打ち解け、宿題、体育館や公園での遊び、東北サファリパークへの遠足、理科の実験教室など、盛りだくさんの5日間を学生と送りました。最終日のキャンドルナイトでは、直前までの雷雨も上がり、協力して並べたロウソクに火を点し、別れを惜しみながら、最後のひとときを過ごしました。



ボランティアハウス

ボランティアをより多く確保するために、ボランティアの宿泊場所「ビーンズハウス」をつくりました。場所は、福島市佐原仮設です。

8月19日から21日まで、静岡の大学生が7名宿泊し、学習支援などに参加しました。

※電化製品、家具など、足りません。ご協力よろしくお願ひします。

詳しくは、024-573-0150

新山まで。

